

II 各教科の正答率、誤答例及び所見

2 社会

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	3	422	88.7%	0	0.0%	49	10.3%	5	1.1%	88.7%
	問 2	2	315	66.2%	63	13.2%	80	16.8%	18	3.8%	72.8%
	問 3	2	289	60.7%	2	0.4%	185	38.9%	0	0.0%	61.1%
	問 4	5	283	59.5%	144	30.3%	44	9.2%	5	1.1%	77.7%
	問 5	3	287	60.3%	27	5.7%	162	30.4%	0	0.0%	63.4%
2	問 1	2	404	84.9%	0	0.0%	72	15.1%	0	0.0%	84.9%
	問 2	3	190	39.9%	1	0.2%	285	59.9%	0	0.0%	40.1%
	問 3	5	245	51.5%	136	28.6%	67	14.1%	28	5.9%	67.9%
	問 4 (1)	3	270	56.7%	2	0.4%	151	31.7%	53	11.1%	57.0%
	問 4 (2)	3	307	64.5%	21	4.4%	142	29.8%	6	1.3%	67.0%
3	問 1	2	319	67.0%	0	0.0%	156	32.8%	1	0.2%	67.0%
	問 2 A	2	326	68.5%	1	0.2%	122	25.6%	27	5.7%	68.6%
	問 2 B	2	170	35.7%	2	0.4%	239	50.2%	65	13.7%	35.9%
	問 3	2	185	38.9%	0	0.0%	290	60.9%	1	0.2%	38.9%
	問 4	3	176	37.0%	0	0.0%	299	62.8%	1	0.2%	37.0%
	問 5	5	26	5.5%	357	75.0%	28	5.9%	65	13.7%	49.5%
4	問 1	3	72	15.1%	3	0.6%	337	70.8%	64	13.4%	15.5%
	問 2	2	175	36.8%	113	23.7%	180	37.8%	8	1.7%	49.3%
	問 3	5	31	6.5%	145	30.5%	163	34.2%	137	28.8%	21.7%
	問 4	3	74	15.5%	2	0.4%	394	82.8%	6	1.3%	15.7%
	問 5	2	171	35.9%	6	1.3%	294	61.8%	5	1.1%	37.3%
5	問 1	3	157	33.0%	37	7.8%	279	58.6%	3	0.6%	37.1%
	問 2	5	159	33.4%	198	41.6%	56	11.8%	63	13.2%	51.6%
	問 3	4	182	38.2%	84	17.6%	153	32.1%	57	12.0%	47.2%
	問 4	3	270	56.7%	2	0.4%	194	40.8%	10	2.1%	57.1%
	問 5	3	86	18.1%	0	0.0%	313	65.8%	77	16.2%	18.1%
	問 6	6	165	34.7%	149	31.3%	31	6.5%	131	27.5%	52.2%
6	問 1	3	198	41.6%	0	0.0%	257	54.0%	21	4.4%	41.6%
	問 2	3	216	45.4%	1	0.2%	195	41.0%	64	13.4%	45.5%
	問 3	3	146	30.7%	3	0.6%	256	53.8%	71	14.9%	31.2%
	問 4	5	43	9.0%	189	39.7%	55	11.6%	189	39.7%	29.8%

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

学力検査の平均点は、49.1点(昨年度49.5点)であった。標本の通過率は48.7%(昨年度47.9%)で、標準偏差は20.75であった。分野別の通過率は、地理的分野68.2%(昨年度65.1%)、歴史的分野37.2%(昨年度48.5%)、公民的分野45.7%(昨年度29.7%)という結果であった。また、大問6の総合問題の通過率は36.0%(昨年度42.4%)であった。地理的分野、公民的分野は通過率が上がり、一方で、歴史的分野の通過率が下がった。

地理的分野では、大問1の問1や大問2の問1のように、六大陸と三大洋や世界の国々、都道府県の名称と位置などの地域構成についての問題は、通過率8割を超えているものの、大問1の問5や大問2の問2など資料やグラフを読み取る問題では、通過率6～7割程度であった。複数の資料の内容を関連付けて正しく判断することなど、資料の読み取りが課題といえる。

歴史的分野では、文化や人物を答える問題についての通過率はおおむね良好であったが、歴史の大きな流れの理解をみる問題の通過率はやや低かった。特に大問4の近現代についての問題は通過率が低かった。

現行の学習指導要領では、近現代の歴史を一層重視することが求められており、問4のような歴史の展開をつかんでいるかをみる問題の通過率が特に低かったことを踏まえ指導の改善にいかす必要がある。

公民的分野では、問5の正答率が極めて低かった。民主政治の意義や国民生活の向上と経済活動とのかかわりなど、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎の理解に加え、社会の諸問題に対して自ら考えようとする態度を育てることも重視したい点である。

総合問題である大問6の問4のように文章を記述させる問題では、資料から読み取った内容と自分の知識を関連付けて表現する力をみようとすることが多い。こうした問題にしっかりと取り組めるように、授業では毎時間、学習課題に対する答えを生徒の言葉で表現させるなどの工夫が大切である。また、思考力や表現力等を育成するために、文章を書くことに慣れさせる取り組みが必要である。

① 地理的分野において、日本や外国について調べる学習の場面を想定し、地図や統計資料などの活用を通して、世界の様々な地域や、世界と比べた日本の地域的特色に関する基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・判断力・表現力をみよとしたものである。全体の通過率は74.2%と良好であった。

問1 六大陸と三大洋に関する出題である。通過率は88.7%と極めて良好であった。大陸と海洋のおよその位置関係および名称を学習することは、世界の地理的認識を深める際に、関心を高めたり学習成果の定着を図ったりするのに効果的であるので必ず習得させたい。

問3 サウジアラビアに住む人々がイスラム教と深く結びついて生活していることを通して、生活と宗教との関わりについての理解をみる問題である。通過率は61.1%とおおむね良好であった。宗教は、衣食住や生活習慣、行事や祭り、さらには人間の生き方や考え方にも大きな影響を与える。世界的に広がる宗教の分布について大まかに把握させ、歴史的分野と関連づけて理解させることが大切である。また、他地域の人々の生活を理解する際には、多面的・多角的な視点からそれぞれの文化を尊重する態度を身に付けさせることにも留意したい。

問4 地図中に示した4つの都市の雨温図を読み取り、その中から熱帯に属するマナオスの雨温図を選び、選んだ雨温図から熱帯の気温の特色を文章で答える問題である。通過率は77.7%と良好であった。地図中に示されたマナオスが赤道に近い低緯度に位置することから、年間の気温が高いことや一年を通して気温の変化が少ないことを学習している。解答としては、85%の受検生がイの雨温図を選択しているものの、熱帯の特色を文章で解答する際、気温差が少ないことは理解していても気温が高いことを書いていなかったり、反対に、気温が高いことは書いていても気温差がほとんど無いことに触れていなかったりと、説明不足により部分点の対象となる解答が多かった。

② 地理的分野において、日本のある地域の産業などについて調べる学習の場面を想定し、地図や資料などの活用を通して、日本の諸地域や地域的特色、身近な地域の調査に関する基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・判断力・表現力をみよとしたものである。全体の通過率は、62.6%とおおむね良好であった。

問2 グラフ1(日本の木材輸入量、木材国内生産量及び木材自給率の推移)とグラフ2(産地別木材輸入量の内訳)の複数の資料を読み取り、その内容を答える問題で、資料活用の技能をみよとしたものである。通過率は40.1%とやや低かった。誤答を分析すると、産地別木材輸入量の内訳のグラフは正しく読み取っているものの、産地ごとの輸入量を計算する過程で誤ったり、計算で得た答えを他の資料と比較する際に誤ったりすることが多かった。授業では、地理的事象を様々な根拠となる資料に基づいてとらえるなど、資料活用の技能を高める工夫が必要である。

問3 岐阜県の白川村にある伝統的な住居(合掌造り)の写真資料と白川村の気温と降水量のグラフから、伝統的な住居の屋根の形にみられる特色を、白川村の気候に着目して説明する問題である。通過率は、67.9%とおおむね良好であった。正答を導き出すには、気温と降水量のグラフから白川村が冬に降雪の多い日本海側の気候であることとともに積雪による荷重を減らすために屋根の勾配が急であることを説明する必要がある。誤答の多くは、気候の特色や住居の屋根の形にみられる特色を正しく表現できないものであった。日々の授業で、資料から読み取ったことや思考したことを正しく表現させるための指導の工夫と時間の確保が必要である。

問4(2) 地形図の読み取りについては、通過率は67.0%で、おおむね良好であった。縮尺や地図記号、方位に関する理解は身につけていると思われる。誤答の多くは等高線に関わるものである。2地点の高さを比較する問題や等高線の間隔から地表の傾斜を読み取る問題で、解答することが難しかったようである。

3 歴史的分野の近世までの問題である。全体の通過率は48.7%(昨年度49.0%)とやや低かった。我が国の歴史の大きな流れを、古代から近世までの各時代に制定された法律等に関するまとめを通じて、近世までの日本の歴史に関する基礎的・基本的な内容の理解とともに、歴史に対する思考力・表現力をみようとしたものである。

問1 飛鳥文化に関する問題である。文化の特色について述べたbの文は、飛鳥文化の特色を示す事象が複数含まれていることから、これを適切に判断し正答を導き出したい。通過率は67.0%とおおむね良好であった。誤答の59.5%が飛鳥文化の特色について述べた文は正しく選択できたが、代表的な文化財の選択で間違っていた。各文化の特色を理解させる際、その時代の政治や社会と関連付けて理解させるような指導の工夫が求められる。

問3 鎌倉時代における社会や経済の特色に関する問題である。それぞれの文は、受検生が使用している教科書の記述をもとにした学習事項であるが、通過率は38.9%と低く、誤答もすべての選択肢に分散していた。歴史上の人物や出来事の学習に加え、人々の生活に根ざした伝統や文化に着目して指導する機会の充実が求められる。また、各単元の学習のまとめとして、時代の大きな流れを振り返る場面を設定する必要がある。

問4 日本と世界の歴史のつながりに関する問題である。通過率は37.0%と低かった。元寇と東アジアとのかかわり、新航路の開拓とヨーロッパ人の来航、産業革命の進展に伴う欧米列強のアジア進出など、世界の歴史に関して中学校で取り上げる学習事項はかなり精選される。しかし、取り上げた事項は、我が国の歴史の大きな流れを理解させるにあたり関連を重視すべき内容であり、これらを活かして各時代の特色を明らかにすることにより、生徒の多面的・多角的な視点の育成を図りたい。

問5 江戸幕府の禁教政策を問うものである。通過率は49.5%とやや低かった。一揆の名称については、通過率は65.1%とおおむね良好であった。禁教政策の内容記述について、「踏絵(絵踏)」の説明に関しては多くの受検生が正答できた。しかし「宗門改帳」の説明に関しては、完全に解答できたものは5.5%と低く、一部正答が75.0%であり、理解が不十分であった。授業では、資料等を分析する機会を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努める工夫が必要である。

4 近現代の日本と世界に関して、政治、経済及び外交などを通して歴史の流れをとらえる力と、基礎的な知識をみようとしたものである。全体の通過率は25.0%と低かった。

問2 年表中の第一回帝国議会の開催から第一次護憲運動がおこるまでの期間における、東アジアの国際関係に関する問題である。通過率は49.3%とやや低かった。誤答には様々なものがあり「アメリカ」「中国」「ソ連」などがみられた。また、誤答のうち72.4%の解答が「遼東半島」とその位置を理解していないものだった。歴史的分野の学習でも、地図を活用し、地理的分野との関連を図ることが必要である。

問3 第一次世界大戦が日本に与えた影響に関する問題である。通過率21.7%と低かった。グラフと資料から、この頃の日本経済の状況をあらわす名称として「大戦景気」を用いることが解答の条件である。誤答のうち、経済状況をあらわす名称が書かれていないものが43.8%あり、大戦景気を「特需景気」「高度経済成長」と誤認している解答もあった。また、グラフから工業生産額と農業生産額の関係の変化についての読み取りができていないものもみられた。授業では、グラフと資料を分析する機会を増やし、生徒の思考力・表現力の育成に努める工夫が必要である。

問4 大正時代から昭和初期の政治の変遷に関する問題である。通過率は15.7%ときわめて低く、誤答の分散も目立つ。近代以降の社会や政治の様子に関する大きな歴史の流れの理解が不足していると考えられる。歴史的な事象の並べかえについては、細かな年号を覚えるのではなく、歴史の流れとともに因果関係をつかませることができるように、「なぜ」「どうして」と発問しながら指導することが求められる。

5 生徒がテーマを設定して発表する場面を想定し、日本の政治や経済などに関する基礎的な知識とともに資料活用の技能や思考力・表現力をみようとしたものである。全体の通過率は45.7%とやや低かった。

問1 日本の裁判制度に関する理解をみる問題である。通過率は37.1%と低かった。誤答はア、次いでオが多かった。アを選んだ生徒は国民審査について想起できず、オを選んだ生徒は裁判員制度についての理解が不足していた。三権の抑制と均衡については理解が進んでいるが、三権と国民の関わりについては理解が不十分である。

問2 小選挙区制についての基礎的な知識をもとに、そのしくみの説明について表現する力をみる問題である。通過率は51.6%と今一步であった。誤答には、選挙区を県や市などの行政区分と同一視しているものや、一人の代表を選ぶことを理解していないもの、比例代表制と混同しているものがある。

った。また、無答率は13.2%であった。

問3 日本の社会保障制度についての基礎的な知識をみる問題である。通過率は47.2%とやや低かった。誤答には、問題文の表の中の語句を組み合わせた様々なものがあり、無答率も12.0%であった。憲法に規定された生存権の内容とともに、社会保障制度の4つの柱について、しっかりと理解させたい。

問6 雇用形態別の労働者に関する資料を読み取り、内容を説明させることを通して、資料活用の技能や思考力、表現力をみる問題である。通過率は52.2%とあまり芳しくなく、無答率も27.5%であった。一部正答としたものの例としては、グラフ1について、どちらも非正規労働者が正規労働者より少ないと解答したものや、グラフ2について、正規労働者より非正規労働者の賃金が高いことのみを指摘して、年齢に伴う変化の差を読み取れなかったものがあった。グラフを読み取る際には、グラフに示された変化を読み取り、その変化の理由を考えさせる指導が必要である。

6 日本の祭りに関連する事項について調べる学習を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の3分野に関連した基礎的な知識とともに、資料活用の技能や思考力・判断力・表現力を総合的に見る問題である。全体の通過率は36.0%と低かった。

問1 福岡県の将来推計人口や年齢別将来推計人口の割合の変化について、グラフから読みとれる内容を選択肢から選ぶ問題である。通過率は41.6%とやや低かった。誤答の多くはウを選択しており、2030年における老年人口割合と年少人口割合を読み違えたと考えられる。グラフや表を活用した学習を行う際に、着目すべき点を明らかにすることで焦点化を図らせる必要がある。また、年齢別の将来推計人口に関して、少子高齢社会の更なる進展という大きな流れを理解させたい。

問2 院政についての基礎的・基本的な理解をみる問題である。通過率は45.5%とやや低かった。誤答の6割が「摂関政治」と解答している。天皇や貴族の政治が展開されるなか、それぞれの政治体制の特色を理解させ、天皇・貴族中心から武士の支配が強まっていく過程を大きな流れの中で捉えさせたい。

問4 徳島県の平成26年度当初予算（歳入）について、埼玉県の当初予算（歳入）と比較することでその特色を文章で表現する問題である。通過率は29.8%と低く、無答率は39.7%であった。地方の歳入において財源の確保は大きな課題であり、特に全国的な水準を維持する観点から、地方交付税交付金、国庫支出金、地方債に注目させる必要がある。自分たちの住む県や市町村など身近な事例を取り上げることや、他との比較を通して興味・関心を喚起し、知識の定着に努めたい。

トピック

本年度の問題には、資料から読み取った内容を文章で説明する問題が7問出題された。平均の正答率は28.6%と低く、通過率の平均は約50.1%と今一步であった。しかし一方で無答率は18.6%であり、本年度はこれまでより無解答が少なかった。昨年度、正答率が最も低かった問題では、正答率8.8%無答率47.1%、一昨年は正答率2.5%に対し無答率36.4%であった。平成27年度の問題では、正答率5.5%に対し無答率13.7%となっている。これは、文章で説明する問題に対して最後まであきらめることなく取り組む生徒が増えてきたことの流れであり、表現力の育成に取り組んできた成果といえる。引き続き、資料から読み取った内容から社会的現象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりするなどの言語活動の充実をはかることにより、表現力の育成に取り組んでいきたい。特に、複数の資料の内容を関連付けて文章で説明させるなどの工夫が必要である。以下、表現力を育成するための授業時間1時間の授業の流れを示す。

① 授業のはじめで「目標」「めあて」を明確に示す ことで…

- ・ 見通しを持って授業に臨むことができる。
- ・ 授業の終末での自分の姿をイメージできる。
- ・ 授業のポイントをつかみやすくなる。



② 「目標」「めあて」に整合した

「まとめ」を生徒自身の言葉で表現する ことで…

- ・ 学習内容の振り返りができる。 ・ 学習内容の定着を確認できる。
- ・ 理解できていない内容を把握できる。

表、グラフ、写真などを根拠資料として「まとめ」を書かせるとよい。

